今日のトピック トルコリラの動向

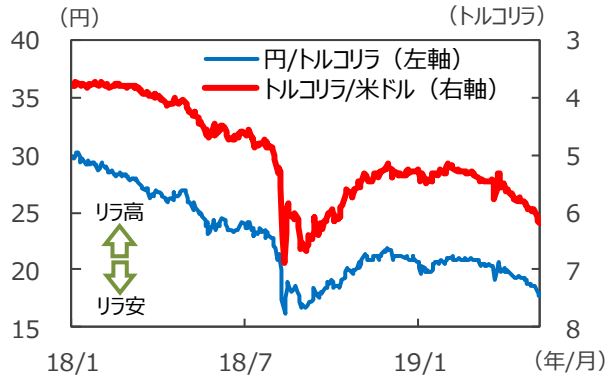
トルコリラ下落、市長選やり直しで政治不安高まる

ポイント1 トルコリラ大幅安
エルドアン政権への不安高まる

■ 5月6日、トルコ最高選挙管理委員会（YSK）は、3月末に実施されたイスタンブール市長選の結果を無効とし、6月23日にやり直し選挙を実施することを発表しました。エルドアン大統領率いる与党・公正発展党（AKP）は同選挙で敗れ、市長選の無効と再選挙の実施を求めていました。

■ YSKの発表に対し、金融市場ではエルドアン政権の意向を受けた決定との見方もあり、同大統領の政治や経済への影響に対する懸念が高まったことからトルコリラの売りがふくらみました。

【トルコリラ（対円、対米ドル）の推移】



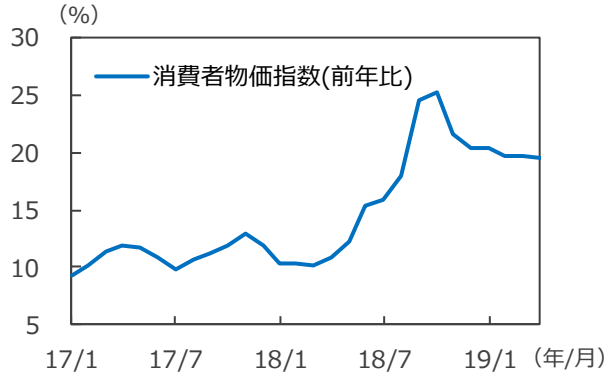
（注）データは2018年1月1日～2019年5月8日。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 中銀の信認低下も懸念材料
トルコリラは下落基調が続く

■ トルコリラは2018年に対米関係の悪化から大きく下落した後（トルコショック）、回復傾向にありました。しかし、本年３月下旬には外貨準備高の大幅減少をきっかけに不安定な動きとなり、トルコリラは下落基調に転じました。

■ 4月の金融政策決定会合では、中銀が金融引き締め姿勢を後退させたため、金融引き締め解除を求めるエルドアン政権に配慮したとの見方から中銀に対する市場の信認が低下したことも、トルコリラにとってマイナス材料となりました。5月8日現在、トルコリラは対円では1リラ17.8円と、年初から14%下落しました。

【インフレ率の推移】



（注）データは2017年1月～2019年4月。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 トルコリラは一進一退、上値の重い展開を見込む

■ 米国は金融政策正常化に慎重になっており、金利の先高観はないため、新興国通貨は総じて落ち着いた状況が続くとみられ、トルコリラの下支えとなると考えられます。一方でトルコリラの動向に大きく影響を及ぼす米国との関係では、トルコのロシア製ミサイル導入などを巡り多くの懸念材料があります。

■ 米国との関係悪化やエルドアン政権の政治、金融政策などへの圧力が嫌気されれば、トルコリラは一進一退ながらしばらくは上値の重い展開が見込まれます。トルコリラの安定にはこれらの改善が必要でしょう。

ここもチェック！
2019年4月10日 IMFの世界経済見通しは3回連続で下方修正　2019年後半から景気は持ち直しへ
2019年4月 4日　吉川レポート（2019年4月）継続する「綱引き」状態

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。